NRI 未来創発
Dream up the future.

NRI 学生小論文コンテスト 2013

わくわく社会

世界に向けて未来を提案しよう！

野村総合研究所
Nomura Research Institute

NRI学生小論文コンテスト2013

世界に向けて
未来を提案しよう!

野村総合研究所（NRI）は、企業理念として
「未来創発 —— Dream up the future.」を掲げています。
「創発」とは、多様な才能やアイデアが互いに作用しあい、
新しい価値を生み出し、全体として高まっていくことです。
この「NRI学生小論文コンテスト」は、
次代を担う若い皆さんとともに未来の社会を創発していこうと、
2006年から行っています。
2013年の募集テーマは、
「あなたが考える“わくわく社会”を描いてください」としました。
世の中に広がる閉塞感を晴らし、
大きなわくわく感に満たされた社会の姿と、
その実現方法について、提案を募りました。
この冊子には、入賞論文をはじめ、審査の過程や応募者の感想、
コンテストを応援したNRIグループ社員の活動などをまとめています。

私たちが描く、“わくわく社会”

未来を想像し、
希望や期待を抱く
ことができる社会。

先端医療技術で
元気に長生きし、
余生が10年延びる。

だれもがためらいなく
国境を越えていける
社会。

異文化への適応力を
身につけた若者が
世界で活躍する。

社会全体で
子育てを支援。

だれもが自由に
自分の未来を
決定できる。

社会に貢献できる
農業を作り上げる。

多民族や多文化が
共生する社会。

世代を越えて
支え合い、学び合う。

個人の喜びが
社会の喜びに
リンクしている。

競争社会から
連帯社会に
脱皮する。

高齢者が目標を持ち、
生き生きと暮らす
社会。

世界の人々が
飢餓にさらされず、
豊かに幸せに暮らす。

日本の最高水準の
医療で世界の人々の
健康に貢献。

異文化理解と
コミュニケーションの
実現。

教育格差がなく、
自分の未来に
希望を持てる。

目次

2 私たちが描く、“わくわく社会”
6 NRI学生小論文コンテスト2013「世界に向けて未来を提案しよう！」
7 募集要項
8 審査結果
12 コンテストへの想い

13 **入賞論文　大学生の部**
14 大賞 **国際社会で活躍するための近道**――「周学」システム　宇多 将太郎
20 優秀賞 **“学ぶ”という、シニアライフの提案**――将来への「不安」を「期待」へ変える　朝妻 美旺
26 優秀賞 **先端医療技術が達成するピンピンコロリ（PPK）社会**　石原 純
35 優秀賞 **開発途上国における女性教育**　今井 愛美

41 **入賞論文　留学生の部**
42 大賞 **積極的な教育投資のための教育税導入と教育システムの改善**　鄭 祥教
50 優秀賞 **多民族、多文化共生社会づくり**――個人のわくわくから共同のわくわくへ　楊 嘉偉
56 特別審査委員賞 **異文化理解による正しいコミュニケーション**　朴 管成

63 **入賞論文　高校生の部**
64 大賞 **だれもが国境を軽々と越えていく社会**――必修教科「グローバル・コミュニケーション科」の創設　木田 夕菜
68 優秀賞 **未来を想像できる社会へ**――新ゆとり教育から生まれるわくわく社会　後藤 悠香
72 優秀賞 **わくわく高齢化**　松澤 優実
76 優秀賞 **ITで支える農業**――全ての人々に十分な食料を　山岸 明夢

81 **募集告知から審査、そして表彰まで**
82 募集告知
84 審査
86 2次審査会
90 論文発表会
92 表彰式
94 コンテストへの応募動機
98 NRI社員による審査の感想
100 NRI社員のコンテスト告知活動、教員から見た「NRI学生小論文コンテスト」
102 おわりに
103 メディアでの掲載

NRI学生小論文コンテスト2013
「世界に向けて未来を提案しよう！」

野村総合研究所（NRI）は、「未来創発—Dream up the future.」という企業理念のもと、未来社会のパラダイムを洞察し、その実現を担うことを使命としています。そうしたNRIの社会的責任の一環として、これからの社会を担う若い世代の皆さんに、日本や世界の未来に目を向け、考える機会を持っていただこうと、2006年から「NRI学生小論文コンテスト」を開催しています。

今回は“わくわく社会”を3部門（大学生の部、留学生の部、高校生の部）の共通テーマに設定しました。学生の皆さんには、現状を改善する課題解決思考だけでなく、“わくわく感”をキーワードに未来の社会像を構想し、その創り方や実現のために自分たちがすべきことを前向きに考えてほしい、という想いを込めています。

本冊子では、過去最多となった応募論文1,518本の中から、1次審査、2次審査を経て選出された入賞論文11点を掲載するとともに、選出までの過程をまとめています。

募集要項

日本や世界を元気にする
斬新で力強い提案を！

大学生の部、留学生の部、高校生の部　共通テーマ
世界に向けて未来を提案しよう！

あなたが考える
“わくわく社会”を
描いてください

大学生の部

応募資格：日本国内の大学院、大学、短大、高等専門学校（4～5年）に在籍している学生で、27歳以下の個人またはペア。ペアの相手は、留学生の部、高校生の部の応募資格者でも可。

字数：4,500～5,000字
＊別途400字程度の要約を添付。
賞：［大賞1名］賞金50万円、［優秀賞若干名］賞金25万円、［佳作若干名］賞金5万円

留学生の部

応募資格：日本国内の大学院、大学、短大、高等専門学校（4～5年）、日本語学校に在籍している留学生で、30歳以下の、個人またはペア。ペアの相手は留学生の部の応募資格者に限る。

字数：4,500～5,000字
＊別途400字程度の要約を添付。
賞：［大賞1名］賞金50万円、［優秀賞若干名］賞金25万円、［佳作若干名］賞金5万円

高校生の部

応募資格：日本国内の高校、高等専門学校（1～3年）に在籍している、学生の個人またはペア。ペアの相手は高校生の部の応募資格者に限る。

字数：2,500～3,000字
＊別途200字程度の要約を添付。
賞：［大賞1名］賞金30万円、［優秀賞若干名］賞金15万円、［佳作若干名］賞金3万円

※論文は日本語で作成してください。
※論文は自作で未発表のものに限ります。
※テーマをそのまま論文タイトルとはせず、独自のタイトルを必ずつけてください。
※3名以上のグループでの応募は、審査対象外となります。

審査結果

入賞者の皆さんおめでとうございます！

入賞

大学生の部

大賞
国際社会で活躍するための近道――「周学」システム
宇多 将太郎　早稲田大学 政治経済学部３年

優秀賞
“学ぶ”という、シニアライフの提案
――将来への「不安」を「期待」へ変える
朝妻 美旺　新潟大学 教育学部２年

優秀賞
先端医療技術が達成するピンピンコロリ（PPK）社会
石原 純　東京大学大学院 新領域創成科学研究科 博士課程３年

優秀賞
開発途上国における女性教育
今井 愛美　三重大学 人文学部 法律経済学科３年

留学生の部

大賞
積極的な教育投資のための教育税導入と教育システムの改善
鄭 祥教　大阪大学大学院 基礎工学研究科 修士課程２年

優秀賞
多民族、多文化共生社会づくり
――個人のわくわくから共同のわくわくへ
楊 嘉偉　国際ことば学院日本語学校２年

特別審査委員賞
異文化理解による正しいコミュニケーション
朴 管成　麗澤大学 外国語学部３年

高校生の部

大賞
だれもが国境を軽々と越えていく社会
――必修教科「グローバル・コミュニケーション科」の創設
木田 夕菜　鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校２年

優秀賞
未来を想像できる社会へ
――新ゆとり教育から生まれるわくわく社会
後藤 悠香　大阪府立千里高等学校３年

優秀賞
わくわく高齢化
松澤 優実　千葉県 私立 市川高等学校１年

優秀賞
ITで支える農業
――全ての人々に十分な食料を
山岸 明夢　神奈川県 私立 湘南白百合学園高等学校２年

佳作

（氏名の五十音順）

大学生の部

危機感の中で育てる将来への可能性
青山 真純　東洋大学 法学部３年

『わくわく循環型社会』を目指して
――「女子」から学ぶ、「趣味の公共化」によるソーシャルデザイン
飯田 貴也　早稲田大学 先進理工学部４年

女性の社会進出と少子化問題
――育児と在宅型勤務の両立による未来型労働の実現
今竹 悠　龍谷大学 国際文化学部３年

『キッズ予防医科』から始まる健康地域社会の構築
岩間 優　東京医科大学 医学部１年

世界を救う地球市民教育――競争から連帯の社会へ
大多和 祐介　早稲田大学 政治経済学部２年

社会全体に貢献する農業の実現――人の、人による、人のための農業
小田 真也　神戸大学 経済学部４年

幸福度指標と社会政策
河本 愛　金沢大学 人間社会学域 経済学類３年

ソーシャルデザインを通じてよりよい社会へ
菅野 汐里　東京工芸大学 芸術学部４年

合コンが少子化を救う
富澤 涼　青山学院大学 経済学部３年
柴田 亮　青山学院大学 経済学部３年

仕事を持ち運ぶ社会へ――ICT限定総合職という働き方
西田 貴紀　明治大学 政治経済学部４年
佐々木 崇人　一橋大学国際・公共政策大学院 公共法政プログラム 修士課程１年

先人の知恵の継承と新たな教育の融合
――リベラルアーツ教育がもたらすわくわく社会の実現
橋本 綾子　慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 修士課程１年
有澤 友里　早稲田大学 政治経済学部２年

少子化を良い方向に考える
山本 隆平　三重大学 人文学部２年

留学生の部

わくわくした社会に学ぶ
于 顆星　同志社大学大学院 ビジネス研究科 専門職課程２年

コミュニケーション能力の向上によりわくわく社会へ――自己表現力を中心に考える
王 廷浩　京都大学経営管理大学院 専門職課程１年

団結を強めるリラックスした日本へ
蘇 丹　信州大学 国際交流センター 交換留学生

いま、ここ、観光クラウドで新たな地域づくりをめざしましょう
――地域と外国人観光客の間に、より直接で感性的なコミュニケーションを築こう
趙 熠瑋　北海道大学大学院 文学研究科 修士課程１年

もうこれ以上失うな、日本
マイ マイ クオン　横浜国立大学 理工学部２年

「わくわく感」はどこに隠れているのだろうか
メスロピャン メリネ　東北大学大学院 国際文化研究科 修士課程１年

シニアが働く、力強い日本社会――進む超高齢化社会のなかで
盧 喬世　立命館大学 経営学部２年

高校生の部

「みちづくり」――歴史に立ち返った新しい道の形
飯尾 祐介　愛知県 私立 東海高等学校２年

未来への一歩
井戸 祐介　広島県立安古市高等学校２年

わたしが考えるわくわく社会
大植 光起　東京都立小石川中等教育学校４年（高校１年相当）

学生のうちから将来を考える――高校生就業学習に取り組める社会
小倉 弓枝　西宮市立西宮高等学校１年

子どもの持つ力
片 瑞菜　東京都 私立 中央大学高等学校３年

私たちの時代 ――「理想」を見つけて
片山 泰加　和歌山県立日高高等学校２年

わくわく社会に導け！
門倉 慧　埼玉県 私立 本庄東高等学校１年

わくわく社会の創り方――お年寄り＋子どもたち＝？？？
川手 毬愛　宮崎県立宮崎大宮高等学校１年

日本が元気になるための子育て支援について
河村 彩花　東京都 私立 星美学園高等学校２年

異世代間の助け合いがわくわくへと導く
齊藤 麻衣　宮城県宮城野高等学校１年

DEAR WOMAN ――みんなが笑顔になれる社会
鈴木 梨央　お茶の水女子大学附属高等学校１年

わたしの考えるわくわく社会
竹下 友菜　京都府立須知高等学校１年

「褒める文化」の少ない日本
手塚 葵　神奈川県 私立 洗足学園高等学校２年

最高の日本の医療を世界に広めたい
十倉 京香　京都市立堀川高等学校２年

誰もがそして１人１人が《わくわく》する社会
長澤 杏優　神奈川県 私立 湘南白百合学園高等学校２年

演劇で心に触れる
平川 千晶　神奈川県 私立 横浜雙葉高等学校２年

宇宙資源の有用化と私の夢
穂積 由希　さいたま市立浦和高等学校１年

エネルギーによってもたらされる明るい社会
水﨑 太郎　和歌山県 私立 開智高等学校１年

お年寄りが主役！――見えてきた明日のビジネスのカタチ
水野 加奈子　愛知県立愛知商業高等学校３年

研究拠点を人類に。
道盛 裕太　神戸大学附属中等教育学校５年（高校２年相当）

北海道長沼町から考える日本の農業の未来
宮井 理紗子　北海道 私立 立命館慶祥高等学校３年

Watariプロジェクト
――里山から熱帯雨林へ、「姉妹保護林」をつなぐ森林再生の地球ネットワーク
宮澤 小春　長野県長野高等学校１年

創刊　写真による世界の今
宮前 美里　奈良県 私立 帝塚山高等学校１年

夏祭りから見えてきた花火のように広がる子育て支援の輪
山口 遥　愛知県立愛知商業高等学校３年

論文の応募概況

「NRI学生小論文コンテスト2013」には、大学や日本語学校など84校、高等学校や高等専門学校など81校から、過去最多となる計1,518本の応募がありました。部門別の内訳は、大学生の部に189本、留学生の部に58本、高校生の部に1,271本です。

共同で文章をまとめるペア応募は20組ありました。部門別の内訳は、大学生の部に9組、留学生の部に3組、高校生の部に8組です。なかには異なる大学に籍を置く大学生同士による論文もありました。

コンテストへの想い

自ら考え、学び、日本・世界の未来を支えて

NRI取締役会長
藤沼 彰久

日本はこの20年間、右肩下がりだと言われていますが、皆さんの論文を読んで、日本の未来も期待できるという思いを強く持ちました。NRIは企業の社会的責任の一環として、未来の日本を支える人材の育成や教育活動に力を入れています。論文を書くことを通じて、若い人たちには物事を考え、頭を鍛え、さらに学びを積んでほしい。鍛えられた人たちがこの先の日本をしっかり支え、明るい世界を築いてくれることを期待しています。

新鮮な発想に触れることが毎年の楽しみ

「NRI学生小論文コンテスト」
特別審査委員
ジャーナリスト・東京工業大学教授
池上 彰 さん

毎年「NRI学生小論文コンテスト」の応募論文を通して若い世代の方々の新鮮な発想に触れることは、大変楽しく、また自分自身の勉強にもなっています。今年の「わくわく社会」を描くというテーマは、大変難しかったと思いますが、皆さんが抱くさまざまなわくわく感を共有することができました。そして自分自身でも「わくわく感とは、わくわく社会とは、どんなことだろう」と改めて考える良い機会を持てたと思っています。

自分の思いを出発点に思考を深めて

「NRI学生小論文コンテスト」
特別審査委員
ノンフィクションライター
最相 葉月 さん

私がインタビューや取材をして作品を書くとき、自分は何を知りたいのか、訴えたいのかという動機が作品の大きな力になります。論文も同じだと思います。「わくわく社会」というテーマを世界的な視点で考えるにあたっても、「自分はどういうことにわくわくするか」という個人的な思いが出発点になるはずです。もし世界の人々の幸せを思い描くなら、その出発点は自分の身近な人たちとの関係性を大切にすることであることを、忘れないでほしいと思います。